資料1 完全版下入稿のお願い

カスタムゴボのデータ入稿に際しましては、完全版下での入稿をお願いします。

データの加工は版権の問題が絡んでおります。 昨今の知的財産保護の厳格化という要請に照らし ましても、当社でのデータ加工は原則行わないこととさせていただきます。

完全版下とは当社レーザーマシーンでそのまま切削が可能なデータを指します。 レーザーマシ ーンではイラストレーターフォーマット (.ai) を読み取り・変換を行い駆動部を 制御します 。 レーザーマシーンでの変換時には通常のプリンタ制御・ポストスクリプトコマンドと異なる動作 を 可能にする完全版下にするために下記の条件を満たす必要があります。

- 1. 塗りつぶされるべきオブジェクトが閉じられたパスで構成されていること
- 2. グループ化されていないこと
- 3. 文字はアウトライン化されていること
- 4. 全て白塗りで構成されており、線の太さはないこと
- 5. クリッピングマスクが使用されていないこと
- 6. 複合シェイプが使用されていないこと

7. 各オブジェクトに重なりがないこと 上記は本資料3ページに詳細を記載してありますの でご参照ください。

次に、データの受け渡しに際して誤解を避ける(どこをレーザーでカットするかを正確にする) ために下記のフォーマットをお願いします。

- 黒レイヤーの上に、別レイヤーを作成し、そのレイヤーを透過するデザイン(ゴボで出したいデザイン)を白で表現する。これによって、抜く箇所が正確になります。
 - 9. 実寸で作成すること。これによって、実際のサイズとビーム径の誤差表示が可能となり ます。
- 10. ゴボのデザインは光源側から見たイメージでデータ作成して下さい

入稿データと仕上がりの違いにつきまして

当社のレーザーマシーンは、レーザービームを用いてイラストレーターで作成され閉じられたパ スのアウトラインをなぞり、その内側をレーザービームが塗りつぶしていくようにガラス蒸着面 を削って作成しております。 従いまして、レーザービーム径により、コーナー部の丸みの発生 、ビーム径によるつぶれ・拡大 が発生してしまいます。次項以降で具体的に説明致します。



ビーム径によるコーナーの丸み(この例ではわかりやすいように実際よりもレーザービーム径を 大きく表現、または拡大して見た図で表現しています)

上記のように、いただいたデータと製品の間にはビーム径により、誤差が発生する点をあらかじ めご了承いただけますようよろしくお願い申し上げます

ビーム径による、イメージの拡大・つぶれの例

オリジナルのイメージ

完全版下の確認 1:閉じられたパスで構成され

ているかの確認

まず、表示メニューからアウトラインを選択しアウトライン表示にします

書式(T)	効果(C) 表	示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	Br
-		アウトライン(0)	Ctrl+Y
-) × 名称未設定-1:	*@ 6400%(オーバープリントプレビュー(V) ピクセルプレビュー(X)	Alt+Shift+Ctrl+Y Alt+Ctrl+Y
		校正設定(F) 色の校正(C)	۲
		ズームイン(Z) ズームアウト(M) アートボードを全体表示(W) すべてのアートボードを全体表示(L) 100% 表示(E)	Ctrl++ Ctrl+- Ctrl+0 Alt+Ctrl+0 Ctrl+1
		境界線を隠す(D) アートボードを隠す(B) プリント分割を表示(T)	Ctrl+H Shift+Ctrl+H
		スライスを表示(S)	

選択メニューから「すべてを選択」を選びます。

選択	(S) 効果(C) 表示(V) ウィンドウ(W)	ヘルプ(H)
	すべてを選	択(A)		Ctrl+A
	<pre>*** 選択を解除(再選択(R) 選択範囲を)</pre>	Nートのタベ (D) 反転(I)	Cを選択(L) Si	AIL+Ctrl+A hift+Ctrl+A Ctrl+6
	前面のオブ: 背面のオブ:	ジェクト(V) ジェクト(B)		Alt+Ctrl+] Alt+Ctrl+[
	共通(M) オブジェク	ト(0)		k k
	選択範囲を 選択範囲を	保存(S) 編集(E)		

すべてが選択された状態で

オブジェクトメニュー > パス > パスのオフセットを選択し、ダイアログウィンドウで適当な 数値を入れると

上図のように閉じられたパスのオブジェクトは、オブジェクトの外側のみオフセットがかかりま すが、閉じられていないパスの場合は、オブジェクトの外側と内側にオフセットがかかります。 上図左側のような場合は、塗りつぶすことができませんので、この場合は端点(閉じられていな いパスのそれぞれの両端)を探して結合を行ってください 2

: グループ化されていない事の確認

(1:) で説明したようにすべてを選択してください この状態で、オブジェクトメニューの「 グループ解除」がグレー表示になっていることを確認し

<u>てください(黒く選択可能状態ならグループされている</u>ものあります)

編集(E)	オブ	ジェクト(0)	書式(T)	選択(S)	効果(C)	表示(V) 「
在 .27% (CMYK/		変形(T) 重ね順(A)				+ +
		クループ(G) グループ解除(ロック(L)	(U)		Shif	t+Ctrl+G
		すべてをロッ? 隠す(H)	ク解除(K)		A	lt+Ctrl+2 ▶
		すべてを表示			A	lt+Ctrl+3
		分割・拡張(X) アピアランスペ ラスタライズ(グラデーション モザイクオブ: 透明部分を分割) を分割(E) (Z) ンメッシュ ² ジェクトを何 割・統合(F)	を作成(D) 作成(J) 		
		スライス(S) トリムマーク?	を <mark>作成(</mark> C)			+
		パス(P) パターン(E)				k k

3: 文字がアウトライン化されているかの確認

鏶(E) オブジェクト(O) 書式(T) 選択(S) 効果(C)	表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	Br 📕 🗸
	アウトライン(0)	Ctrl+Y
(CMYK/アウトライン) × 名称未設定-1*@ 200% (CMYK/プレビン)	オーバープリントプレビュー(V) ピクセルプレビュー(X)	Alt+Shift+Ctrl+Y Alt+Ctrl+Y
	校正設定(F) 色の校正(C)	۲
文字 (アウトライン化 前)	ズームイン(Z)	Ctrl++
文子 () フトフィンル 前)	ズームアウト(M)	Ctrl+-
	アートボードを全体表示(W)	Ctrl+0
	すべてのアートボードを全体表示(L)	Alt+Ctrl+0
又子(パリトライン化 俊)	100% 表示(E)	Ctrl+1
	境界線を隠す(D)	Ctrl+H
		- 1 1

現在同じように見える(プレビュー状態です)文字もアウトライン表示にすると

編集(E) オノシェクト(O) 香丸(I) 選択(S) 効果(C)	衣示(V) ワイントワ(W) ヘルノ(H)	
	プレビュー(P)	Ctrl+Y
27% (CMYK/アウトライン) × 名称未設定-1*@ 200% (CMYK/アウト	・ ・	
	校正設定(F) 色の校正(C)	٠
	ズームイン(Z)	Ctrl++
メチ (アウトフイン16 前)	ズームアウト(M)	Ctrl+-
	アートボードを全体表示(W)	Ctrl+0
	すべてのアートボードを全体表示(L)	Alt+Ctrl+0
又子 バリトライノ化 俊川	100% 表示(E)	Ctrl+1
	倍要線を膺す(D)	Ctrl+H

アウトライン化されていない文字は、左下にアンカーポイントマークがついています

4: すべて白塗りで線の太さがない事を確認するには

(1:)で説明したようにすべてを選択した状態で

Ai	ファイル(F)	編集(E)	オブジェク	ト(0)	書式(T)	i
オブ	ジェクトの混在		- 🖌 - 👌	: 🗧		
++	001ai* @ 120	0% (Cmitte	<u> *!ピー・) ×</u>	名称:	未設定-1* 0	
\$	138	140	, 142,	1,44		

左上のメニューの赤丸で囲われているところが上記のようになっている必要があります

Ai	ファイル(F) 編集((E) オブ	ジェクト	`(O)	書
オブ	ジェクトの	混在 [? • ?	- 線	: ÷	
++	001ai* @	1200% (CM	YK/プレビュ・	-) ×	名称未	k設
	138	., 140.,	142		144	

四角の中が「?」の場合は、色が違っていたり、線の太さがあったりします

5: クリッピングマスクが使用されていないこと

すべてを選択した状態で

「ジェクト(O) 書式(T) 選択(S) 3	効果(C) 表示(V) 「	ラインドウ(W)	ヘルプ(H) <u>Br</u>
変形(T) 重わ順(A)	*	100%	• Ø	- 🖪 🛎
エルス() ガループ(G)	Ctrl+G	e lier	Leed	Lites
グループ解除(U)	Shift+Ctrl+G	2	156	158
ロック(L)	•			
すべてをロック解除(K)	Alt+Ctrl+2			
隠す(H)	+			
すべてを表示	Alt+Ctrl+3			
分割・拡張(X)				
アピアランスを分割(E)				
ラスタライズ(Z)				
グラデーションメッシュを作成(D)				
モザイクオブジェクトを作成(J)				
透明部分を分割・統合(F)				
スライス(S)	•			
トリムマークを作成(C)				
パス(P)	•			
パターン(E)	+			
ブレンド(B)	÷			
エンベロープ(V)	+			
遠近(P)	•			
ライブペイント(N)	+			
画像トレース	+			
テキストの回り込み(W)	•			
クリッピングマスク(M)	•	作成(M)		Ctrl+7
複合パス(0)	+	解除(R)		Alt+Ctrl+7
アートボード(A)	+	マスクを編	集(E)	
グラフ(R)	•		//	/

クリッピングマスクの「解除」がグレー表示であることを確認してください

6: 複合シェイプが使用されていないこと

すべてを選択した状態で、オブジェクトの混在という表示がある場合は、 レイヤーウインドゥを確認し、複合シェイプが含まれていないかを確認してください。

複合シェイプが含まれる場合は、パスファインダーウィンドウ右上のメニューから、 「複合シェイプを解除」を選択してください。

パスファインダー 🔳	トラップ(T)
形状モード:	中マドの繰り返し パスファインダーオプション(P)
パスファインダー:	復合シェイプを作成(■)
	復合シェイプを解除(C)
	複合シェイプを拡張(E)
\$ 変形 =	

選択するとわかりますが、オブジェクト同士が重なっているところがあります このような、場 合はパスファインダーの形状モード等を使って次ページのように重なりの無いオ ブジェクトに してください

7:各オブジェクトに重なりがない事

以上の点に留意していただき、完全版下での入稿をお願い申し上げます